

科目名 (英)	情報管理学 (Information management)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火・木 曜日・時限 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	個人情報の管理やデータの扱い方及び、またITリテラシーについて説明できる						
到達目標	・個人情報の取り扱い方を理解し実施できる						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	リスクマネジメント論を理解できる(1)	国家試験問題で予習・復習
2		講義	リスクマネジメント論を理解できる(2)	国家試験問題で予習・復習
3		講義	リスクマネジメント論を理解できる(3)	国家試験問題で予習・復習
4		講義	スタンダードプリコーションを理解できる	国家試験問題で予習・復習
5		講義	EBMとNBPMを理解し説明できる	国家試験問題で予習・復習
6		講義	チームビルディングとコンフリクトマネジ	国家試験問題で予習・復習
7		講義	チームビルディングとコンフリクトマネジ	国家試験問題で予習・復習
8		講義	AEDとBLSを説明できる(1)	国家試験問題で予習・復習
9		講義	AEDとBLSを説明できる(2)	国家試験問題で予習・復習
10		講義	国家試験の過去問で学習し理解する(1)	国家試験問題で予習・復習
11		講義	国家試験の過去問で学習し理解する(2)	国家試験問題で予習・復習
12		講義	国家試験の過去問で学習し理解する(3)	国家試験問題で予習・復習
13		講義	国家試験の過去問で学習し理解する(4)	国家試験問題で予習・復習
14		講義	国家試験の過去問で学習し理解する(5)	国家試験問題で予習・復習
		本試験	筆記試験	
15		講義	まとめ	国家試験問題で予習・復習
準備学習 時間外学習			国家試験の過去問で学習	
【使用教科書・教材・参考書】			随時、資料を配布	

科目名 (英)	精神医学 (Psychiatry)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	白木達也
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	医師。現在、病院の精神科に勤務している。						
学習内容	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ						
到達目標	精神疾患の概要、治療について理解を深め、理学療法士国家試験の過去問を解くことができる						
評価方法 (基準)	筆記試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	精神障害と精神医学について述べるこ	講義の復習を行う事
2		講義	精神障害の成因と分類について述べるこ	講義の復習を行う事
3		講義	統合失調症の症状について述べるこ	講義の復習を行う事
4		講義	統合失調症の分類について述べるこ	講義の復習を行う事
5		講義	統合失調症の治療について述べるこ	講義の復習を行う事
6		講義	気分障害について述べるこ	講義の復習を行う事
7		講義	気分障害について述べるこ	講義の復習を行う事
8		講義	神経症について述べるこ	講義の復習を行う事
9		講義	神経症について述べるこ	講義の復習を行う事
10		講義	心身症、薬物関連障害について述べるこ	講義の復習を行う事
11		講義	認知症の症状について述べるこ	講義の復習を行う事
12		講義	認知症の分類について述べるこ	講義の復習を行う事
13		講義	認知症の治療について述べるこ	講義の復習を行う事
14		講義	てんかん、児童精神医学について述べるこ	講義の復習を行う事
		本試験	筆記試験	
15		講義	精神保健福祉法について述べるこ	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習			講義の復習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】			標準 理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版(医学書院)	

科目名 (英)	老年学 (Gerontology)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期・後期・通年 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	①日本は超高齢社会となり、高齢者の人口率が高い。臨床実習に於いて高齢者を担当することになる。高齢者の場合、本来の病気や障害に加えて老化に伴う変化もある。より質の高い適切な治療を提供するため、老年学を学ぶ必要性が高い。 ②人間発達学の教科と関連が深く、整形、内部障害、日常生活活動学等の理解を深めるための位置付けとなる。 ③年齢に応じた理学療法を展開できるようになって欲しい。						
到達目標	①高齢者の特性を説明することができる。 ②高齢者に特徴的な疾患の病態・治療・予防の関連を説明することができる。 ③高齢者に向けた行政の対策について説明することができる。 ④加齢に伴う運動・心理などの変化、その対策を述べることができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	加齢と廊下の違い、老化の特徴、高齢者の健康増進のための行政の対策が説明できる。	講義の復習を行う。
2		講義	加齢に伴う生理機能の変化を説明できる。	講義の復習を行う。
3		講義	加齢に伴う運動機能の変化を説明できる。	講義の復習を行う。
4		講義	高齢者の心理機能の変化を説明できる。性別による違いを述べられる。	講義の復習を行う。
5		講義	高齢者に接する際に年齢に応じた対応と評価を工夫することができる。	講義の復習を行う。
6		講義	高齢者の精神面(打つ、認知症)の特徴を述べることができる。	講義の復習を行う。
7		講義	高齢者の循環器の病態と特徴を説明できる。	講義の復習を行う。
8		講義	高齢者の運動器、耳・目の疾患の病態と特徴を説明できる。	講義の復習を行う。
9		講義	高齢者の消化と排泄の病態と特徴を説明できる。	講義の復習を行う。
10		講義	高齢者の代謝、免疫の変化を説明できる。	講義の復習を行う。
11		講義	高齢者を取り巻く環境の問題とその解決策を工夫することができる。	講義の復習を行う。
12		講義	高齢者の年齢に応じたリハビリテーションの進め方を工夫することができる。	講義の復習を行う。
13		講義	認知症のリハの進め方を工夫することができる。	講義の復習を行う。
14		講義	医療の現状と終末期医療のあり方を述べられる。	講義の復習を行う。
		本試験		
15		講義	試験解説。講義のまとめ。	講義全体の復習を行う。
準備学習 時間外学習			高齢者の特徴について調べ、理解しておくこと	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	社会保障制度論 (Social Security)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	高梨友也 千脇隆志
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 土曜日 3・4限
教員の略歴	社会福祉士、修士。障害者・高齢者福祉施設における生活相談員、管理者、施設長を経験。						
学習内容	①現代の社会保障制度は、人口動態や世帯構造の変化、国家のあり方など、制度の背景となる時代や政策が大きく変化しながら推移している。制度の持続可能性を含めた検討と取り組みが求められており、歴史と現状を学ぶ。②社会保障を構成する医療・公衆衛生・社会保険等の各領域を含めた上位概念である「社会保障」について学ぶ。③社会保障領域に携わる者として、それらを理解し、他領域の人々に説明できるよう学習する。						
到達目標	①社会保障の基本的な機能と役割を理解し、国民生活に沿った形で説明できる。②社会保障制度の構造と必要性について、他者に説明できる。③社会保障制度における自分の位置が理解でき、そのなかの役割を説明できる。④自分の役割を理解したうえで、他領域とどのように連携していくかをイメージできる。⑤生活支援を必要とする人に、活用できる制度を説明できる。						
評価方法 (基準)	1) 期末レポート60% 2) 授業内レポート20% 3) 授業内活動20% 4) 到達目標の①②③について、80%以上理解すること 5) 到達目標の④⑤について、60%以上理解すること 6) 準備学習と時間外学習を課し、その達成度が60%以上であること						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	社会保障の概念を自分の言葉で説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
2		講義・演習	社会保障の目的を述べることができる	教科書の事前学習と授業後の確認
3		講義	社会福祉の法制度の概要を説明できる	社会福祉の説明資料の検索と確認
4		講義・演習	現代社会の変化と人口構造・世帯構造の変化を例を用いて説明できる	人口の変化を示す資料の準備と授業後の確認
5		講義	経済状況と地域社会の変化を説明できる	地域別の社会構造と経済状況の関連分析
6		講義・演習	社会保障と社会福祉の動向について述べる ことができる	関連資料を自力で検索・分析と復習
7		講義	貧困・低所得問題と公的扶助制度の概要を説明 できる	教科書の事前学習と授業後の確認
8		講義	生活保護制度の内容と課題を記すことができる	教科書の事前学習と授業後の確認
9		講義・演習	医療保障制度の沿革と構造を説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
10		講義	高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉それぞれを 説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
11		講義・演習	社会福祉援助と連携の重要性について自分の言 葉で説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
12		講義	介護保障の歴史と介護保険制度創設の背景を述 べる ことができる	教科書の事前学習と授業後の確認
13		講義	所得保障制度の構造を説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
14		講義・演習	年金保障制度のしくみと今後の展望を述べるこ とができる	教科書の事前学習と授業後の確認
		本試験	期末課題レポート	
15		講義・演習	社会保障制度を総括して述べる ことができる	これまでの資料の概観と総括
準備学習 時間外学習			学ぶ内容や学んだ内容を、自分や患者の実際の生活と結び付けることを意識すること。	
【使用教科書・教材・参考書】			系統看護学講座専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度 医学書院	

科目名 (英)	臨床運動学 (Psychopathology Movement)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	丸屋 健
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 臨床的視点から病態構造を理解する 運動学・運動学実習で得た知識を元に、病態を学習する 各疾患が及ぼす運動障害に関して、運動機能と疾患、運動機能障害、動作分析等を理解する 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①病態運動学を理解するうえで重要な基礎知識について理解し説明することができる。 ②各疾患と機能障害について知識を整理し、運動学と疾病、および理学療法との関係について理解を深めることができる。 ③演習を通して、各疾患に対する運動学的捉え方と、評価、治療介入について体験することができる。 						
評価方法 (基準)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定期試験90% 2) 授業参加率・授業内態度10% 						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	講義	運動学で学んだ知識と病態の関連について、		講義内容の復習
2	/	講義	骨・関節の構造と機能について説明できる。		講義内容の復習
3	/	講義	筋の構造と機能について説明できる。		講義内容の復習
4	/	講義	随意運動と反射・筋緊張について説明できる。		講義内容の復習
5	/	講義	生体力学(バイオメカニクス)について説明できる。		講義内容の復習
6	/	講義	重心と支持基底面について説明できる。		講義内容の復習
7	/	演習	肩関節の関節構造と機能障害について述べるができる。		講義内容の復習
8	/	演習	肘関節の関節構造と機能障害について述べるができる。		講義内容の復習
9	/	演習	手関節の関節構造と機能障害について述べるができる。		講義内容の復習
10	/	演習	股関節・骨盤帯の関節構造と機能障害について		講義内容の復習
11	/	演習	膝関節の関節構造と機能障害について述べるができる。		講義内容の復習
12	/	演習	足関節の関節構造と機能障害について述べるができる。		講義内容の復習
13	/	演習	脊柱の関節構造と機能障害について述べるができる。		講義内容の復習
14	/	演習	関節構造と機能障害に臨床応用について		講義内容の復習
	/	中間試験	筆記		
15	/	演習	前期で学んだ病態運動学を学ぶ上で必要な基礎知識と、機能障害について説明		講義内容の復習
16	/	演習	基本的な姿勢の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解する		講義内容の復習
17	/	演習	基本的な姿勢の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解する		講義内容の復習
18	/	演習	基本的な寝返り・起き上がりの概念について述べるができる。また、病態の関		講義内容の復習
19	/	演習	基本的な寝返り・起き上がりの概念について述べるができる。また、病態の関		講義内容の復習
20	/	演習	基本的な起立・着座動作の概念について述べるができる。また、病態の関連		講義内容の復習
21	/	演習	基本的な起立・着座動作の概念について述べるができる。また、病態の関連		講義内容の復習
22	/	演習	基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解		講義内容の復習
23	/	演習	基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解		講義内容の復習
24	/	演習	基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解		講義内容の復習
25	/	演習	整形外科疾患の病態と運動障害特性について		講義内容の復習
26	/	演習	整形外科疾患の病態と運動障害特性について		講義内容の復習
27	/	演習	中枢疾患の病態と運動障害特性について		講義内容の復習
28	/	演習	中枢疾患の病態と運動障害特性について		講義内容の復習
29	/	演習	各疾患の病態と運動障害特性の臨床応用について理解することができる。		講義内容の復習
30	/	演習	後期のまとめと確認		講義内容の復習
	/	期末試験	筆記		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名 (英)	理学療法研究法 (Reserch in PT)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中/学校教育/スポーツ)、修士(医科学)。急性期から生活期の臨床現場を経験し、研究やスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	リハビリテーション・理学療法・医療関連領域の知識習得や研究の進め方・考え方を学ぶ。						
到達目標	理学療法学における知識を活用し、研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について理解することができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。	講義内容の復習
2		講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。(EBM・EBPT)	講義内容の復習
3		講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。	講義内容の復習
4		講義	研究デザインについて説明することができる。	講義内容の復習
5		講義	研究計画・研究倫理について説明することができる。	講義内容の復習
6		講義	文献査読を行い研究について理解を深めることができる。	講義内容の復習
7		講義	症例を基にした理学療法研究の概要について理解することができる。	講義内容の復習
8		講義	症例を基にした理学療法研究の計画を進めることができる。	講義内容の復習
9		講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる①	講義内容の復習
10		講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる②	講義内容の復習
11		講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる③	講義内容の復習
12		講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる④	講義内容の復習
13		講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる⑤	講義内容の復習
14		講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる⑥	講義内容の復習
		本試験	筆記試験	
15		講義	総括	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと	
【使用教科書・教材・参考書】			随時、資料を配布	

科目名 (英)	卒業研究 (Graduation Research)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	内開講期
学修コース	理学療法士コース	授業 必修	講義	120 単位	120 単位	120 単位	120 単位
教員の略称	理学療法士(認定)臨床中(学校教育(入部)、修士(臨床)、急性期から在宅まで幅広い臨床経験を継続し、研究やスポーツ分野での活動も実施)						
学習内容	基礎医学分野と理学療法専門分野の知識をまとめ、国家試験に対応できる「理解力」「思考力」を養う。またそれらの知識を基にした臨床的思考力を養う。						
到達目標	学習内容の理解を深め、臨床現場での実践的知識を身につけることができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

回数	日付	授業形態	授業計画(内容)	
			学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション：勉強の仕方(理解→反復→考えを力、解決力)を理解することができる。	講義内容の復習
2		講義	各分野についてのガイドラインを理解することができる。	講義内容の復習
3		講義	神経系(中枢神経、自律神経)の解剖を理解することができる。	講義内容の復習
4		講義	神経経路の構造、興奮と伝導、シナプス伝達、反射、適応性、前駆命令の伝達を理解することができる。	講義内容の復習
5		講義	体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚、触覚、発声器官、言語中枢を理解することができる。	講義内容の復習
6		講義	特異的運動単位、随意運動、随意筋、運動による生理学的反応、交感神経、自律神経(働き)を理解することができる。	講義内容の復習
7		講義	呼吸、循環(心臓の機能を学ぶ)を理解することができる。	講義内容の復習
8		講義	運動分析、動作分析、姿勢、歩行を理解することができる。	講義内容の復習
9		講義	運動とエネルギー代謝、力学、四肢と体幹の運動を理解することができる。	講義内容の復習
10		講義	運動学習を理解することができる。	講義内容の復習
11		講義	リハビリテーション医学：機能障害の評価とリハビリテーション、原因検索を理解することができる。	講義内容の復習
12		講義	理学療法と臨床医学：理学、予防、物理療法、評価、検査、診断、リハビリテーションを理解することができる。	講義内容の復習
13		講義	神経、筋の構造と臨床医学：理学、予防、物理療法、評価、検査、診断、リハビリテーションを理解できる。	講義内容の復習
14		講義	内部障害と臨床医学：理学、予防、物理療法、評価、検査、診断、リハビリテーションを理解することができる。	講義内容の復習
15		講義	老年期障害と臨床医学：理学、予防、物理療法、評価、検査、診断、リハビリテーションを理解することができる。	講義内容の復習
16		講義	神経障害、リハビリテーション：構造と臨床、評価、検査、診断、リハビリテーションを理解することができる。	講義内容の復習
17		講義	理学療法の種類、基礎(認定)、臨床、研究、運動、運動学、運動学、持久性等を理解することができる。	講義内容の復習
18		講義・演習	評価学：目的、手順、全身状態、運動学、感覚、高次脳機能、呼吸、循環、消化、泌尿器が理解できる。	講義内容の復習
19		講義・演習	神経系「感覚野」の理解「感覚野」の理解「感覚野」の理解	講義内容の復習
20		講義・演習	理学療法論(理学)：基本的運動療法を理解することができる。	講義内容の復習
21		講義・演習	理学療法論(理学)：基本的運動療法を理解することができる。	講義内容の復習
22		講義・演習	理学療法論(理学)：運動療法を理解することができる。	講義内容の復習
23		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法Iを理解することができる。	講義内容の復習
24		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法IIを理解することができる。	講義内容の復習
25		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法IIIを理解することができる。	講義内容の復習
26		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法IVを理解することができる。	講義内容の復習
27		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法Vを理解することができる。	講義内容の復習
28		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法VIを理解することができる。	講義内容の復習
29		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法VIIを理解することができる。	講義内容の復習
30		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法VIIIを理解することができる。	講義内容の復習
31		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法IXを理解することができる。	講義内容の復習
32		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法Xを理解することができる。	講義内容の復習
33		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XIを理解することができる。	講義内容の復習
34		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XIIを理解することができる。	講義内容の復習
35		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XIIIを理解することができる。	講義内容の復習
36		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XIVを理解することができる。	講義内容の復習
37		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XVを理解することができる。	講義内容の復習
38		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XVIを理解することができる。	講義内容の復習
39		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XVIIを理解することができる。	講義内容の復習
40		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XVIIIを理解することができる。	講義内容の復習
41		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XIXを理解することができる。	講義内容の復習
42		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXを理解することができる。	講義内容の復習
43		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXIを理解することができる。	講義内容の復習
44		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXIIを理解することができる。	講義内容の復習
45		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXIIIを理解することができる。	講義内容の復習
46		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXIVを理解することができる。	講義内容の復習
47		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXVを理解することができる。	講義内容の復習
48		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXVIを理解することができる。	講義内容の復習
49		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXVIIを理解することができる。	講義内容の復習
50		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXVIIIを理解することができる。	講義内容の復習
51		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXIXを理解することができる。	講義内容の復習
52		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXXを理解することができる。	講義内容の復習
53		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXXIを理解することができる。	講義内容の復習
54		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXXIIを理解することができる。	講義内容の復習
55		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXXIIIを理解することができる。	講義内容の復習
56		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXXIVを理解することができる。	講義内容の復習
57		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXXVを理解することができる。	講義内容の復習
58		講義・演習	理学療法論(理学)：補綴療法XXXVIを理解することができる。	講義内容の復習
59		講義	総まとめ(共通領域全範囲)を行うことができる。	講義内容の復習
60		講義	総まとめ(専門領域全範囲)を行うことができる。	講義内容の復習
		本試験	筆記試験	
		準備学習 時間外学習	講義内容の復習	
		【使用教科書・教材・参考書】	随時、資料を配布	

科目名 (英)	理学療法教育学 (Educatin of PT)		必修 選択	必修	年次	4	担当教員	渡邊好孝
学科・コース	理学療法科 I 部		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 土曜日 1・2限
教員の略歴	理学療法士。現在、宮城県理学療法士会の会長を担っている。							
学習内容	理学療法士の教育システムや組織での人材育成方法等について説明することができる。							
到達目標	①理学療法士にふさわしい倫理と心構えを説明できる ②医療現場におけるスタッフ教育の在り方、スタッフマネジメントについての理解できる							
評価方法 (基準)	1) 授業態度30%、定期試験(課題レポート)70%							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1		講義	医療現場のルール(医療人のモラル, 命を扱うということ)を理解することができる		講義内容の復習			
2		講義	社会人としてのマナー(挨拶の仕方・意義, 時間管理, 公私混同, 整理整頓の仕方)を理解する		講義内容の復習			
3		講義	就業規則について(良い職場をつくる, トラブルの予防)理解することができる		講義内容の復習			
4		講義	サービスの構造とマネジメント(医療の質, マネジメント理論)を理解することができる		講義内容の復習			
5		講義	PDCAマネジメントサイクル(PDCAサイクルを回す意義, その他)を理解することができる		講義内容の復習			
6		講義	研修の種類と、その目的(職場における研修の在り方, 研修の種類)の検討)を理解することができる		講義内容の復習			
7		講義	患者サービスと医療サービス(安全対策マニュアル, セカンドオピニオン, 質の高い医療と満足度の高いサービス)		講義内容の復習			
8		講義	チーム医療(医療専門職の連携)を理解することができる		講義内容の復習			
9		講義	チーム医療(患者・家族の尊厳, QOLの向上・維持)を理解することができる		講義内容の復習			
10		講義	優先順位の考え方(優先順位をつける項目, 意義と方法について)を理解することができる		講義内容の復習			
11		講義	タイムマネジメント(生産性を高める時間管理, 仕事効率と時間効率)について理解すること		講義内容の復習			
12		講義	タイムマネジメント(手帳の管理, ToDoリスト, フレーンストーミング, 職場コミュニケーション)		講義内容の復習			
13		講義	生涯教育(生涯学習社会)について理解することができる		講義内容の復習			
14		講義	生涯教育(生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響)について理解することができる		講義内容の復習			
		本試験	課題レポート					
15		講義	まとめ(学びの意義, 総まとめ)		講義内容の復習			
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと					
【使用教科書・教材・参考書】			資料を配布する					

科目名 (英)	理学療法管理学 (Management of PT)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中/学校教育/スポーツ)、修士(医科学)。急性期から生活期の臨床現場を経験し、研究やスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	①理学療法概論及びリハビリテーション概論の内容を踏まえ、より具体的に職業倫理と職場管理について学ぶ。 ②医療・福祉現場における教育について、カルテやリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理について学ぶ。						
到達目標	①理学療法士にふさわしい倫理と心構えを説明できる。 ②医療現場におけるスタッフ教育の在り方、スタッフマネジメントについての理解を深める						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	チーム医療（医療専門職の連携）を理解することができる ①	講義内容の復習
2		講義	チーム医療（医療専門職の連携）を理解することができる ②	講義内容の復習
3		講義	チーム医療（患者・家族の尊厳、QOLの向上・維持）を理解することができる ①	講義内容の復習
4		講義	チーム医療（患者・家族の尊厳、QOLの向上・維持）を理解することができる ②	講義内容の復習
5		講義	優先順位の考え方（優先順位をつける項目、意義と方法について）を理解することができる ①	講義内容の復習
6		講義	優先順位の考え方（優先順位をつける項目、意義と方法について）を理解することができる ②	講義内容の復習
7		講義	タイムマネジメント（生産性を高める時間管理、仕事効率と時間効率）について理解することができる ①	講義内容の復習
8		講義	タイムマネジメント（生産性を高める時間管理、仕事効率と時間効率）について理解することができる ②	講義内容の復習
9		講義	タイムマネジメント（手帳の管理、ToDoリスト、プランニング、職場コミュニケーション）を理解すること	講義内容の復習
10		講義	タイムマネジメント（手帳の管理、ToDoリスト、プランニング、職場コミュニケーション）を理解すること	講義内容の復習
11		講義	生涯教育（生涯学習社会）について理解することができる ①	講義内容の復習
12		講義	生涯教育（生涯学習社会）について理解することができる ②	講義内容の復習
13		講義	生涯教育（生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響）について理解することができる ①	講義内容の復習
14		講義	生涯教育（生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響）について理解することができる ②	講義内容の復習
		本試験	筆記試験	
15		講義	総括	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと	
【使用教科書・教材・参考書】			資料を配布する	

科目名 (英)	理学療法評価学実習Ⅱ (Practyce In Evaluation of PTⅡ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	梶原 一将
学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義・演 習・実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法臨床実習で学んだ評価事項を改めて整理し、個々の症例に合わせた評価を説明できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・評価バッテリーを組み、説明することができる。 ・疾患を理解し、リスク管理しつつ評価ができる。 						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	症例「腰痛」を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
2		演習	症例「腰痛」を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
3		演習	症例「RA」を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
4		演習	症例「RA」を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
5		演習	症例「腱板損傷」を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
6		演習	症例「腱板損傷」を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
7		演習	症例「PD」を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
8		演習	症例「PD」を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
9		演習	症例「GBS」を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
10		演習	症例「GBS」を通して評価項目を整理	予習・復習・実技練習
11		演習	症例「運動失調」を通して評価項目を	予習・復習・実技練習
12		演習	症例「運動失調」を通して評価項目を	予習・復習・実技練習
13		演習	症例「脳卒中」を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
14		演習	症例「脳卒中」を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
15		演習	症例「脳卒中」を通して評価項目を整理し説明できる③	予習・復習・実技練習
16		演習	症例「脳卒中」を通して評価項目を整理し説明できる④	予習・復習・実技練習
17		演習	症例「脳卒中」を通して評価項目を整理し説明できる⑤	予習・復習・実技練習
18		演習	症例「脳卒中」を通して評価項目を整理し説明できる⑥	予習・復習・実技練習
19		演習	症例「内臓」を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
20		演習	症例「内臓」を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
21		演習	症例「腰部脊柱管狭窄症」を通して	予習・復習・実技練習
22		演習	症例「腰部脊柱管狭窄症」を通して	予習・復習・実技練習
		本試験	筆記試験	
23		演習	症例「癌」を通して評価項目を整理し	予習・復習・実技練習
準備学習 時間外学習			予習・復習・実技練習	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法評価学 改定第6版(金原出版)	

#NAME?	客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	40 (1)	開講区分	前期 金曜日 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	臨床実習の総括として、基本的に必要な理学療法技術を確認し、実践できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患別の評価を実施することができる。 ・疾患別の治療プログラムを立案し説明ができ、実施することができる。 						
評価方法 (基準)	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	パーキンソン病に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
2		演習	パーキンソン病に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
3		演習	ALSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
4		演習	ALSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
5		演習	SCDIに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
6		演習	SCDIに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
7		演習	GBSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
8		演習	GBSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
9		演習	COPDに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
10		演習	COPDに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
11		演習	脊損に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
12		演習	脊損に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
13		演習	LDHに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
14		演習	LDHに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
15		演習	脳梗塞に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
16		演習	脳梗塞に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
17		演習	脳出血に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
18		演習	脳出血に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
19		演習	脳出血に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
		本試験	実技試験	
20		演習	糖尿病に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
準備学習 時間外学習			疾患と評価の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法評価学 改定第6版(金原出版)	

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	①丸屋 健 ②梶原 一将
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	280 (7)	開講区分	前期
教員の略歴	①理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。 ②理学療法士。ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・地域包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーション						
学習内容	今まで学習した知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと理学療法業務全般について実践を通し学ぶ。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習Ⅱ」では情報収集から治療の立案・実施までを経験する。						
到達目標	臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めるとも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。						
評価方法 (基準)	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント) 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1-200		実習	学内外での臨床実習 期間5/8~6/23(週5日実習、週休20日)	日々の復習
準備学習 時間外学習		臨床実習に向けた自己学習。実技練習を行う		
【使用教科書・教材・参考書】		これまでの教科書全般を使用		

科目名 (英)	国家試験演習Ⅳ (The prac of Qualifying ExamⅣ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	梶原一将 茂呂行哲
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 月・金 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法士に必要な応用知識(理学療法治療学等)を整理し、説明することができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・治療学や評価学の知識を整理し、説明することができる。 ・基礎から繋げることができる。 						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
2		講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
3		講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
4		講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(4)	QBを使用して予習復習
5		講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(5)	QBを使用して予習復習
6		講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(6)	QBを使用して予習復習
7		講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
8		講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
9		講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
10		講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(4)	QBを使用して予習復習
11		講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(5)	QBを使用して予習復習
12		講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(6)	QBを使用して予習復習
13		講義・演習	末梢神経、筋障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
14		講義・演習	末梢神経、筋障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
15		講義・演習	末梢神経、筋障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
		確認試験	筆記試験	
16		講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
17		講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
18		講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
19		講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(4)	QBを使用して予習復習
20		講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(5)	QBを使用して予習復習
21		講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(6)	QBを使用して予習復習
22		講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(7)	QBを使用して予習復習
23		講義・演習	運動発達障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
24		講義・演習	運動発達障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
25		講義・演習	熱傷や癌、廃用症候群を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
26		講義・演習	熱傷や癌、廃用症候群を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
27		講義・演習	画像検査について理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
28		講義・演習	画像検査について理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
29		講義・演習	画像検査について理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
		本試験	筆記試験	
30		講義・演習	まとめ	QBを使用して予習復習
準備学習 時間外学習		QBを使用して予習復習		
【使用教科書・教材・参考書】		QB理学療法士共通・専門問題 MEDIC MEDIA		

科目名 (英)	理学療法総合演習 (Integration of Physical Therapy)	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	丸屋 健
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	理学療法士に必要な知識と技術を整理し、基本的な評価技術を実践することができる						
到達目標	疾患に対しての知識や評価技術を身につけることができる						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習・実技	変形性関節症に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
2		講義・演習・実技	変形性関節症に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
3		講義・演習・実技	骨折、脱臼、靭帯損傷に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
4		講義・演習・実技	関節リウマチに対する評価ができる	疾患の理解・評価内容の確認
5		講義・演習・実技	その他の整形外科疾患の評価ができる	疾患の理解・評価内容の確認
6		講義・演習・実技	脳血管障害に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
7		講義・演習・実技	脳血管障害に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
8		講義・演習・実技	脳血管障害に対する評価ができる③	疾患の理解・評価内容の確認
9		講義・演習・実技	脊髄損傷に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
10		講義・演習・実技	脊髄損傷に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
11		講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
12		講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
13		講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる③	疾患の理解・評価内容の確認
14		講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる④	疾患の理解・評価内容の確認
15		講義・演習・実技	末梢神経損傷に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
		確認試験	筆記試験	
16		講義・演習・実技	末梢神経損傷に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
17		講義・演習・実技	呼吸器障害に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
18		講義・演習・実技	呼吸器障害に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
19		講義・演習・実技	循環器障害に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
20		講義・演習・実技	循環器障害に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
21		講義・演習・実技	筋ジストロフィーに対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
22		講義・演習・実技	筋ジストロフィーに対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
23		講義・演習・実技	小児疾患に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
24		講義・演習・実技	小児疾患に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
25		講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる①	疾患の理解・評価内容の確認
26		講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる①	疾患の理解・評価内容の確認
27		講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる②	疾患の理解・評価内容の確認
28		講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる③	疾患の理解・評価内容の確認
29		講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる④	疾患の理解・評価内容の確認
		本試験	筆記試験	
30		講義・演習・実技	まとめ	疾患の理解・評価内容の確認
準備学習 時間外学習			疾患の理解・評価内容の確認	
【使用教科書・教材・参考書】			必要に応じて	